Summits On The Air（SOTA）の楽しみ

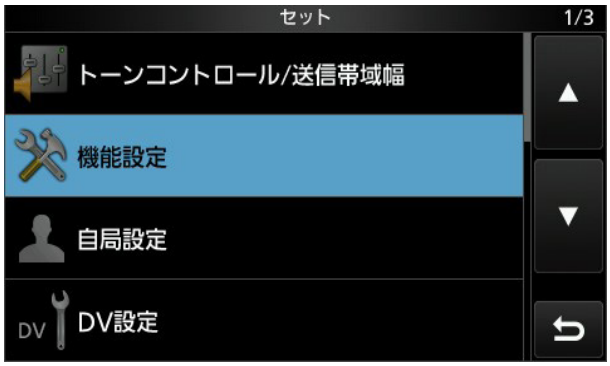
その 45　IC-705 を使ってみて 2

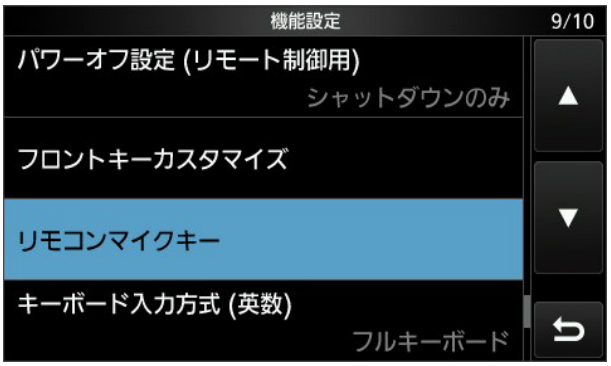
JH0CJH・JA1CTV　川内徹

皆さま、こんにちは。IC-705 を使ってみた感想を交えたレビュー 2 回目になりました。今回もこの IC-705 という人気沸騰中のリグについて、いくつか感想も交えながらあまり他の人に語られていないところをひっそりとレビューしてみたいと思います。

前回はバッテリーのセーブ機能について見てみました。かゆいところに手が届く節電機能が良くお分かりになったかと思います。今回は少し別の角度でこのリグを見てみたいと思います。このリグの大きな魅力のひとつは、単体でボイスメモリーや CW のメモリーキーが内蔵されていることだと思います。私はこのリグを使うまではボイスメモリー、メモリーキーヤー機能を持たないリグであったために、CW のメモリーキーとボイスメモリー、およびそのための電池を別に持って山に登っていました。移動運用に持っていくものが多いと重量が気になる山岳移動では大変です。それだけではなくモノの数が増えると当然忘れ物をする可能性が増えます。

その点すべて内蔵されている IC-705 では安心です。このボイスメモリーと CW メモリーキーヤーでは信号送信のために外部パッドも使えるようですが CW のキージャックを外部パッドとのインターフェース端子として使うため CW で運用する局は二股のケーブルを作るなどの工夫が必要になってしまいますが、マイクについているボタンで対応することができます。これは「MENU」から「SET」を選び、「機能設定」から「リモコンマイクキー」を選定します。





ここで [A] ボタン、[B] ボタンに「ボイス / キーヤー /RTTY メモリー 1」もしくは 2 を選ぶとマイクの A,B ボタンにメモリー送出の機能を持たせることができます。

さらにファームウェアの Ver 1.20 から、[A] ボタン、[B] ボタンに加え、アップ [△] ボタン、ダウン [▽] ボタンにもメモリーキーの送出の設定ができるようになりました。

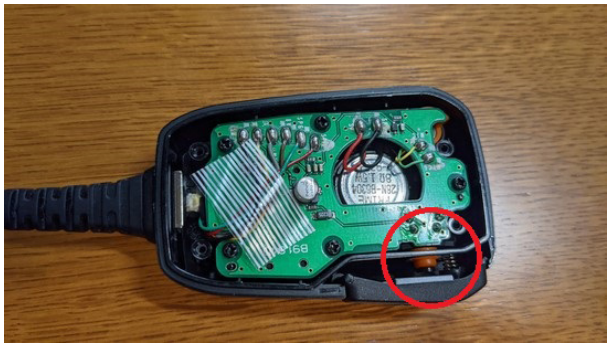
IC-705 の本体側に入れることのできるメモリー数は 8 個ですが、ほとんどの人はメモリーのお世話になりたいのは CQ 送出のところだけでしょうから 4 個もメモリーがマイクボタンに設定できれば十分だと思います。また、このようにマイクのボタンを使ってメモリー送出をすることで、スペアナの画面を表示しながらメモリーの送出ができます。これは山で CQ 連呼などにはとても便利な機能だと思います。

さてマイクの話になりましたので、ここでちょっと紹介しておきますが、この IC-705 に標準で付属しているマイクはこのようにリモコン機能もありとても便利なのですが、PTT のスイッチが結構重いです。

これは大したことないように思えますが、長時間使っていると結構手の指が痛くなります。既に IC-705 を使っている人でも送信中に次第に手の力が緩んで PTT が Off の状態になって受信状態になってしまったという経験をお持ちの方もいるのではないでしょうか？自分自身もそうなった経験がありますし、相手局がそうなった時も何度かありました。これはこの PTT スイッチが重いだけではなく、PTT を押し込んでいった最後の瞬間にマイクロスイッチの On/On/Off が作動するような構造になっているところが関係しているものと思います。重い PTT をギューっと押して行って最後にカチッとマイクロスイッチが On になります。このため少し力が抜けただけでもすぐにマイクロスイッチが Off になり、受信状態になってしまいます。この PTT を何とかしたいと思っていました。

マイクを分解してみます。マイクの背面の 4 つのネジを外します。回転型のベルトクリップを横にすると楽に外せると思います。

背面カバーを外すとこんな感じになっています。



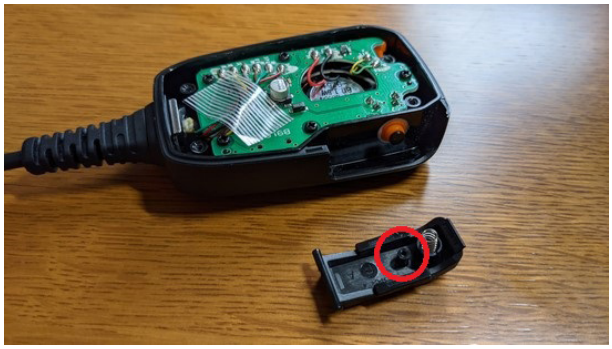
赤丸部オレンジ色の部品がマイクロスイッチです。この状態で PTT を押してみます。

下の写真の状態ではマイクの PTT には何も力をかけていない状態です。

そして下の写真は PTT が On になる位置です。

写真のマイク右下に見える PTT の留め具との位置の差を見ていただくと、どれだけ押し込んでいるかが良く判るかと思います。PTT ボタンをだいぶ押し込む必要があることと、結構バネの力が強いです。つまり最後のマイクロスイッチのひと押しのために大きな力で大きな角度で PTT スイッチを押し込んでおく必要があります。

この PTT 部分をマイク本体から外してみると、下の写真の赤丸部にバネの左側にマイクロスイッチを押す突起がありますが、これがもう少し高いとちょうどいいのではないかと思いました。



このため、ここに 2mm の小さな木ネジを付けてみます。ちょうどマイクロスイッチを押す突起には穴が開いているのでそこに木ネジを取り付けます。木ネジは 2mm(太)x6mm(長) くらいがいいと思います。太さ 2mm でも突起の穴には大きいので突起部分のプラスチックを割らないように注意が必要です。

こんな感じでバネのホルダーよりも少しだけ高くします。

この状態で再度取り付けますが、実はバネはもう必要ありません。バネ無しでも十分にマイクロスイッチだけで PTT スイッチは戻ります。組立後どれくらいの動作で PTT が On になるか見てみます。

下の写真が PTT に何も力をかけていない状態です。

そして下の写真が PTT On の状態です。

先ほどと同じくマイク右下の PTT の留め具との位置の差を見ると、ほとんど動作角が無いように見えると思います。この改造で PTT が本当に楽になります。しかし、くれぐれもプラスチック部品を壊さないように注意してください。また保証対象外になりますので自分の判断でお願いします。

マイクでの提案ですが、この IC-705 の標準マイクはスピーカーマイクでスピーカー機能もあるのですが、スピーカーマイクとして使う人はあまり多くないのではないかと思います。スピーカー端子だけ外しておけばいいのですが、是非マイクだけの機能のもので、さらにもう少しこの PTT の押す力が軽いものを発売してもらえないかなと思います。

今回の提案
1. マイクの PTT の軽さ改良、バネの強さ、マイクロスイッチを押す位置との関係
2. スピーカー機能を除いたマイクだけの製品化

今回は IC-705 のマイク関連の機能について検討してみました。

SOTA 日本支部では常時メーリングリストの申し込みを受け付けております。私宛のメール、jh0cjh599 アットマーク gmail.com でも結構ですし、SOTA 日本支部のホームページの問合せのページから連絡を頂いても結構です。